

6・7月号

カウンセラーだより

たじま絆保育園 2021.6・7月号

保護者の皆さま、こんにちは。いつもお疲れ様です。またもや、おたよりが遅くなってしまいました…。ほんの一部の隠れファンの皆さま？どうもすみません(笑)

さて、今月号は前回お伝えした子どものウソに関して、親はどのようにふるまえば良いのか、に関してお送りしていきます。日々の子育ちに少しでも活ければ幸いです。



「こどものうそにどう対応すれば良いのか？」

今に余裕を持ち、先を見通す

まず親や保育士からよく相談に上がるのが、「いま〇〇だと、大人になってからも〇〇になるのではないか」という疑問です。これは嘘も例外ではないですね。別に差別や優劣を付ける訳ではないのですが(というか、どちらも一長一短なのですが)、女性脳は基本的に感情が優位であるため、今ここに意識が向きやすくなります。一方、男性脳は基本的に計画性が優位であるため、将来への見通しが立ちやすくなります。ですから、多くの母親や女性保育士は、「今こうだから(不安だから)将来も同じになるだろう」と今ここをもとに考えやすくなります。確かに気質(もともとの性格)はあまり質的に大きく変化する訳ではありませんが、嘘は単に防衛本能ですから、社会的な人間になるにつれて、私たちがそうであったように、どんどん嘘は基本的につかなくなっていくます。ですから、「うそじゃん(笑)、だって、こうだったじゃん(笑)」と子どものウソを笑い飛ばすぐらいの余裕と、「いつかわかるだろう」という先を見通す力をなるべく持っていきたいですね。

追い込みすぎるのはNG

さて、これまではどちらかという、嘘に対する向き合い方、心構えや態度にまつわるお話でした。これからは嘘に対する具体的な対応について触れていきましょう。まず大前提として、よく陥りがちなウソの対応に「とことん真実を突き詰めていく」というやり方？があります。これはまじめな親や保育士に多いやり方ですが、このやり方はあまりお勧めしません。というのも、まず年齢にもよりますが、就学前の子どもぐらいでしたら、追い込んでいくほど、記憶力の限界と防衛本能から真実が歪んでいき、挙句の果てには何の話をしていたのか、本当は何が真実だったのかは分からなくなるからです。それに、感情というのは脳の割り合い奥深くにある部位が関係しているため、あまりにも責められてしまうと、不快な感情は意識的・無意識的に長らく沈殿していき、大人になっても、どうも落ち込みやすい、とか、自分に自信が持てない、などの感情が見え隠れする事になりかねません。

確認と次なる行動を示す

ですから、子どもが嘘をついたときには、シンプルに「こうだったよ？」と客観的現実を子どもに伝え、「えー、だって、〇〇だったもん」と反撃？してきたら、「えー、〇〇(こどもの名前)はそう思ったかもしれないけど、ママは(パパは)そうは思わないなー」で、終わりにしましょう。あるいは真実がどうかという論争？を繰り広げるよりも、「次はこうしましょう」と具体的な方法や行動を子どもに短く伝えた方が建設的です。長く論しても、こどもはことばを理解できませんから、要注意です。

8月～9月のお知らせ

- 原則として、第1・第4金曜に出動します。詳しい時間帯は園までご確認ください。(新型コロナウイルス感染症の影響によって、急な変更があり得ます。あらかじめご了承くださいませ)



8・9月号のテーマは「いかに人と折り合い、動いてもらうか」についてお知らせ致します！是非ご覧下さい！